The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | ＜研究ノート＞文副詞hopefullyの起源と発達について |
| Author(s) | 大津, 智彦 |
| Citation | 大阪大学英米研究. 2014, 38, p. 51-57 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/99381 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

研究ノート

# 文副詞 *hopefully* の起源と発達について

大津　智彦

## 1　導入

（1）に見られる文副詞としての *hopefully* は長い間、正用法ではないという批判にさらされてきた。

（1）Hopefully, we'll arrive before dark.

安徳（1988）は、1960年代から1980年代までに出版された20点以上の語法書や辞典を調査し、容認派および非容認派の主張を紹介している。そこからは時の経過とともに議論が落ち着くことがなく、1980年代後半になってもなお、文副詞 *hopefully* に対し根強い反発があることが窺える。

では小論を執筆している2013年時点ではどうか。この問題をどう見ているか手元にある主要な英英辞典を調べてみたところ、以下のように未だに文副詞 *hopefully* が誤用とする向きがあることがわかる。

- "… it is still believed by some people to be incorrect." *Oxford Dictionary of English*, third edition, 2010.
- "a way of saying what you hope will happen, which some people think is incorrect." *Longman Dictionary of Contemporary English*, fifth edition, 2009.
- "Some careful speakers of English think that this use of **hopefully** is not

correct." *Collins COBUILD Advanced Dictionary of English*, 2009.

2012年にアメリカのAssociated Pressが*AP Stylebook*において文副詞*hopefully*を容認する旨の発表をしたが、それを話題にした*The Washington Post*の記事に対する数百に及ぶコメントからもこういった反対者たちの生の声を知ることができる。[1]

本論では、このように長期間に渡る論争を引き起こす文副詞*hopefully*がいつ頃からどのようにして生まれ発達してきたのか、また、そこにこの論争に関するどのような秘密が隠れているのかを探ることを目的とする。

## 2　調査方法

Shapiro（1998: 280）によるとこれまでの文副詞*hopefully*の初出例は*Oxford English Dictionary, 2nd Edition*に掲載の1932年の引用であるという。Shapiro（1998）はこれより早い時期に文副詞*hopefully*が使用されていた可能性があると考え、19世紀中に出版されたアメリカ社会史関連の書籍（1,600冊）および学術誌（10種類）を集積した電子図書館Making of America（MoA）を検索した。[2] その結果、OED2を80年以上遡る次の1851年の用例を発見した。

(2) Hopefully, not to say certainly, in that time, or even before that time, matters and things, in reference to this question, could be got into that state of matured preparation which is necessary to, and should characterize, the incipient measures in this movement. (1851 Thomas J Taylor *Essay on Slavery*)

この発見および他に見つけた1930年代の用例数件により、Shapiro（1998: 288-9）は "If this use of *hopefully* was present in a conservative monograph by 1851 and in the fairly formal, conservative discourse of scholarly journals by the 1930s …, then it was probably present in colloquial language by the early nineteenth

century.”と述べ、文副詞*hopefully*が1800年代初期より口語に存在していたのではないかと推測したうえで、文副詞*hopefully*の使用は従来信じられていたように1960年前後に急に流行しだしたものではなく、それよりも何十年も以前から、辞書編集者や語法学者の批判の的になることもなく使われてきたのだと主張する。

さて、このShapiroの見解は正しいのであろうか。彼は学術書や学術論文しかコーパスとして使用していない。文副詞*hopefully*が口語において1800年代初期より使われてきたという推測を実証するにはできる限り幅広く、口語的なテキストも含んだコーパスを検索する必要がある。今回はその目的のためにBrigham Young UniversityのMark DaviesがWeb上で公開している*Corpus of Historical American English*（COHA）を用いることにした。COHAはFiction, Popular Magazines, Newspapers, Non-Fiction Booksの４つのジャンルからなる1810年から2009年までのアメリカ英語を収めた約４億語のコーパスである。COHAでは1810年から10年刻みで検索が可能であるが、1830年代以降はどの年代も1000万語から2500万語と規模が大きく、また口語に近いと考えられるFictionが各年代50％前後と高い比率を持っているため今回の調査には格好の構成となっている。[3] よってここではShapiro（1998）によれば口語で使われていた可能性があるという19世紀初期から急激に数が増加したという20世紀半ばすぎまで、文副詞*hopefully*の誕生と発達を様態副詞*hopefully*と対比させながら調査したい。なお、Sasagawa（2012）やLiberman（2012）も*hopefully*に関しCOHAを使い年代別出現頻度の調査を行っているが、この調査では両者よりさらに年代を遡り、また扱う年代のきめも細かくし、より詳細に調査した結果を提示するものである。また、導き出した結論も両者とは大きく異なる。

## 3　調査結果と分析

1810年から1970年まで10年毎に*hopefully*をキーワードとしてCOHAを検

索し、ひとつひとつの用例を文脈を見ながら文副詞と様態副詞に振り分けた結果を表1に示した。

この表から、文副詞*hopefully*は1940年代より徐々に出現の兆しを見せだし、1960年代になって爆発的に増加することがわかる。COHAには口語的なテキストが含まれているにも関わらず、1800年代全体にわたって文副詞*hopefully*の用例がほとんど見つからないことから、Shapiro（1998: 288-9）の言うように1800年代初期から口語において使用されてきたものではなく、1960年代前後から急激に流行しだしたものであるという従来の説を実証する結果となっている。

表1　COHAの各年代における文副詞*hopefully*と様態副詞*hopefully*の割合

| | 文副詞 (a) | 様態副詞 (b) | (a)+(b)（100万語毎） | (a)/(a)+(b) % |
|---|---|---|---|---|
| 1810 | 0 | 2 | 2 (1.7) | 0 |
| 1820 | 0 | 4 | 4 (0.6) | 0 |
| 1830 | 0 | 13 | 13 (0.9) | 0 |
| 1840 | 0 | 21 | 21 (1.3) | 0 |
| 1850 | 0 | 70 | 70 (4.2) | 0 |
| 1860 | 0 | 67 | 67 (3.9) | 0 |
| 1870 | 0 | 71 | 71 (3.8) | 0 |
| 1880 | 1 | 63 | 64 (3.1) | 1.5 |
| 1890 | 0 | 52 | 52 (2.5) | 0 |
| 1900 | 0 | 91 | 91 (4.0) | 0 |
| 1910 | 1 | 119 | 120 (5.3) | 0.8 |
| 1920 | 4 | 182 | 186 (7.3) | 2.2 |
| 1930 | 0 | 142 | 142 (5.8) | 0 |
| 1940 | 6 | 178 | 184 (7.6) | 3.3 |
| 1950 | 12 | 202 | 214 (8.8) | 5.6 |
| 1960 | 80 | 152 | 232 (9.7) | 34.5 |
| 1970 | 73 | 85 | 158 (6.7) | 46.2 |

では、テキストのジャンル毎に出現頻度の違いがあるのだろうか。文副詞*hopefully*が徐々に出現しだす1940年代から1970年代について、テキストジャンル別に用例数を整理したものが表２である。この表の括弧内の100万語毎の頻度に注目されたい。そこからは文副詞*hopefully*は会話など口語文を多く含むFictionではなく、Newspaperのジャンルで一気に増加していることがわかる。1960年代はNewspaperの次にPopular Magazinesが高い頻度を示しており、この表現がジャーナリスティクな文体から発達していった可能性が高いことが窺える。ちなみにどちらのジャンルにおいても用例は引用符に囲まれた会話文ではなく、殆どの場合、次のように地の文である。

(3) ... the best defense will continue to be the sort of overwhelming offense that would hopefully deter any potential attacker. (1968 NEWS WallStJrnl)

(4) ... it must have an industry that can meet internal consumer demand and, hopefully, provide some export earnings. (1976 MAG NewRepublic)

1960年代、1970年代ともに100万語毎の頻度ではFictionとNon-fictionの間に大差がないことからも文副詞*hopefully*が特に口語的表現ではないことがわかる。

ちなみに、この調査ではひとつひとつ吟味しながら文副詞と様態副詞に分類していったが、その際に発見したことを記しておきたい。それは、どの年代においても文副詞と様態副詞の間で解釈に困るような曖昧例というものがほとんどなく、すっきりとどちらかに振り分けられたということである。確かに（5）のように分類に迷うものもある。

(5) It was the fake aged fronting set out hopefully to catch the summer tourist trade. (1941 FIC ThisAboveAll)

しかし、このような例は極めて少ない。Chaemsaithong（2007: 30）は文副

詞*hopefully*が様態副詞*hopefully*から発達した可能性を示唆しているが、今回の結果を見る限りその可能性は低いと言える。

表2　COHAにおける文副詞*hopefully*のテキストジャンル別頻度（　）内は100万語毎

| | Fiction | Magazine | Newspaper | Non-Fiction | Total |
|---|---|---|---|---|---|
| 1940 | 2 (0.2) | 3 (0.5) | 1 (0.3) | 0 (0.0) | 6 (0.2) |
| 1950 | 2 (0.2) | 6 (1.0) | 1 (0.3) | 3 (1.0) | 12 (0.5) |
| 1960 | 22 (1.9) | 28 (4.8) | 25 (8.0) | 5 (1.6) | 80 (3.3) |
| 1970 | 28 (2.4) | 16 (2.8) | 20 (5.9) | 9 (3.0) | 73 (3.1) |

## 4　結語

以上、文副詞*hopefully*の起源と発達についてCOHAを検索したデータをもとに考察してきた。その結果、①文副詞*hopefully*は従来の説の通り1960年代より急激に増加し、②その増加は、口語というよりもNewspaper, Popular Magazineといったジャーナリスティクな文体が牽引しており、③また、文副詞*hopefully*は様態副詞*hopefully*から転化した可能性は低い、といったことが判明した。そして、この用法への反発はそれが日常生活の中から長い時間をかけて徐々に発達してきたものではなく、このように急激に増加したものであること、また、それが新聞・雑誌といった媒体がいわば勝手に使用しだしたことと大きく関わっているのではないかと思われる。

残された課題として、突き止めるには困難が予想されるが1960年代に文副詞*hopefully*が爆発的に増加した理由がある。これには言語内的な理由ではなく、何らかの社会的事象との関連で考察する必要があるだろう。より取り組みやすいテーマとして、今回はアメリカ英語のみ扱ったので、イギリス英語における文副詞*hopefully*の発達がある。OEDには“orig. *U.S.*”と記されているが、イギリス英語ではどのようにこの用法が広まっていったのか興味深い。

## 注

1　http://www.washingtonpost.com/lifestyle/style/aps-approval-of-hopefully-symbolizes-larger-debate-over-language/2012/04/17/gIQAti4zOT_story.html

2　書籍、学術誌の冊数は1998年当時のものである。

3　Fictionの会話の部分を口語資料として扱う点に関しては大津（2007: 3）を参照。

## 参考文献

安徳典光（1988）「現代英語の語法研究（IV）–hopefullyについて–」『英語英文学論集』29: 47-60. 西南学院大学.

Chaemsaithong, Krisda (2007) "*Hopefully*." English Today 89, Vol.23, No. 1.

Davies, Mark. (2010-) *The Corpus of Historical American English: 400 million words, 1810-2009*. Available online at http://corpus.byu.edu/coha/.

Liberman, Mark (2012) "Hopefully history." Paper downloaded from http://languagelog.ldc.upenn.edu/nll/?p=3983.

大津智彦（2007)「19世紀イギリス文学作品における過去形と現在完了形の交替ーevereを含む文または節を中心にー」『英語コーパス研究』第14号：1-16. 英語コーパス学会.

Sasagawa, K. (2012) *On the historical development and the present status of hopefully and other sentence adverbs*. Thesis submitted to the School of Foreign Studies, Osaka University.

Shapiro, Fred R. (1998) "A study in computer-assisted lexicology: evidence on the emergence of hopefully as a sentence adverb from the JSTOR journal archive and other electronic resources." *American Speech* 73.3.

Shapiro, Fred R. (1999) "Earlier computer-assisted evidence on the emergence of hopefully as a sentence adverb." *American Speech* 74.4.

Whitley, M. Stanley (1983) "*Hopefully*: a shibboleth in the English adverb system." *American Speech* 58. 2.